



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



新年あけましておめでとうございます。年明けや年度末でいろいろとあわただしい今だからこそ、ちょっと時間を作って本を読み、一息入れて気持ちを整えることも効果的かもしれませんね。それでは今回も、サポーターズおすすめの本を紹介していきます。

～図書館サポーター推薦図書～

『雪だるまの雪子ちゃん』

江國香織 著 (913.6 || E44)



山のふもと小さな村のはずれに住む、雪だるまの雪子ちゃん。彼女は、絵描きの百合子さん家の物置小屋に住む、凛々しく可愛らしい女の子。ちなみに好物はバター。読書や音楽も大好き。そんな彼女は素敵な村の人々に会い、ささやかながらも毎日を大切に過ごしています。そんな姿を見ると、冬の景色は冷たくて寒いはずなのに、心がほっこりと暖かい気持ちになれます。もし、心が冷えていたら少しずつ溶けていくような感覚を覚えるかもしれません。それくらい優しい世界を江國香織さんは丁寧に描かれています。ページをめくると現れる山本容子さんの挿絵も深みがあり、思わず魅入ってしまうような冬の景色を表現されています。舞台は「冬」ですが、季節問わず楽しめる作品です。 (N.Y)

『コブタの気持ちもわかってよ』

小泉吉宏 著

(726.6 || Ko38)



まず絵本と聞いて、皆さんはどんなものをイメージされるでしょうか？

子どもの読むものだとか決め付けて遠ざけてしまっ
てはもったいない！これは大人になった今だからこそ読んでいただきたい、そんな優しくてあたたかい絵本です。

自分の気持ちを話すことが苦手でちょっぴり不器用な、この絵本の主人公である「コブタクん」。そんなコブタクんの抱える思いは、もしかしたら読んでいる私達が一度は感じたことのある気持ちの代弁なのかもしれません。

ふわりと柔らかな文字で綴られた本文も、可愛らしいイラストも必見です。きっと読了後には、ぽかぽかとあたたかな気持ちになっているはず。

是非一度手に取ってみてください。

(A.T)

『少女七竈と七人の可愛そうな大人』

可愛そうな大人』

桜庭一樹 著

(913.6 || Sa46)



「たいへん遺憾ながら、美しく生まれてしまった」

主人公の川村七竈はその美しさゆえ、常に孤独で、彼女と同じような美貌の少年雪風が唯一心許せる友人であり、彼と共に孤高の青春を送っていました。そんな七竈のことを、可愛そうな大人たちは放っておいてくれません。実の父親と名乗る東堂、芸能マネージャーの梅木、そして家に帰らず、行きずりに男を引っ掛け放浪している母の優奈。

母と娘、恋と愛、田舎と都会、美と醜…それらを時間の変化と共に受け入れていく、受け入れざるを得ない七竈とその周りの人々のとても儚く、美しく、やさしい愛の物語です。

風景描写が美しく、そして登場人物にも癖がありとても引き込まれる物語ですので、是非読んでみてください。

(A.O)

*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。

